

[研究論文]

良き市民としての基礎を育てる教師用指導資料の作成

～係活動・キャリア教育動画コンテンツ～

Creation of teaching materials for teachers to nurture
the foundation of being a good citizen

～Activities and Career Education Video Content～

澤山 愛¹⁾・田中裕輝¹⁾・吉丸一樹¹⁾・鳥原美有²⁾・藤本凜音²⁾・脇田哲郎³⁾

Ai SAWAYAMA・Yuuki TANAKA・Kazuki YOSHIMARU・Miyu TORIHARA・Rion FUJIMOTO・Tetsuro WAKITA

- 1) 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻スクールリーダーシップ開発コース
- 2) 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
- 3) 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践研究ユニット

(2023年1月31日受理)

本資料は、集団や社会の形成者として、民主的に話し合っ問題解決したり、自己の将来の生き方に関する課題を解決する方法を意思決定して粘り強く実践し自己実現を図ろうとする、良き市民としての基礎を係活動とキャリア教育から育てるための教師用指導資料である。本資料の作成にあたっては、宗像市のプロジェクトの支援を受け作成したものであり、宗像市の小中学校の教職員がデジタルコンテンツとしていつでも、どこでも閲覧できるようにしたものである。

資料の作成にあたっては、脇田研究室で特別活動を課題研究の内容として研究をしている、本学教職大学院の現職教員として学んでいる3名の院生と、学部卒院生として学んでいる2名の院生が協働で作成したものである。係活動は、教師のきめ細かな配慮のもと子供を信じて任せることによってその効果は発揮され、キャリア教育は、発達の段階に応じた学級活動(3)の授業をプランニングシートで構想し、実践することによって、良き市民としての基礎が培われることが見えてきた。

キーワード：係活動 キャリア教育 学級活動(3) プランニングシート

1 資料作成の目的

本研究は、宗像市の「令和4年度大学生の力によるまちの課題解決プロジェクト」事業の支援を受けて取り組んだものである。本事業は「大学の魅力向上」「大学と協働したまちづくりの実践」を目的に、国立大学法人福岡教育大学、日本赤十字九州看護大学と宗像市が令和3年度から始めている協働事業である。本事業に取り組んだ福岡教育大学教職大学院の院生は、現職教員として学んでいるスクールリーダーシップ開発コースの3名の院生と、学部卒院生として教育実践力開発コースで学んでいる2名の院生である。5名の院生は、脇田研究室で特別活動を研究領域として課題演習に取り組んでいる。

(1) 主題・副主題の意味

① 主題の意味

良き市民としての基礎とは、10年後20年後の社会の形成者として、集団の問題を民主的に話し合い、他者と協働して課題解決に取組みより良い社会を創造しようとしたり自己の生活や将来の生き方に関する課題を解決するために目標を持って粘り強く実践し、自分らしくよりよく生きようとしたりする資質や能力のことである。

教師用指導資料の作成とは、良き市民としての基礎を教師の教育活動を通して育成することを目指す、そのための指導の手引きを作成するということである。

② 副主題の意味

係活動・キャリア教育動画コンテンツとは、係活動とキャリア教育の指導援助コンテンツであり、係活動とキャリア教育の指導のポイントをパワー

ポイントで作成し、音声を聞きながら視聴できるようにしたものである。コンテンツは、宗像市の教職員一人一人が自由に閲覧できる「宗像市教職員共有ドライブ」に常掲して、いつでも必要な時に指導に必要な情報が得られるようにしている。

(2) 係活動と良き市民としての基礎との関係

係活動は、自分たちの学級を楽しく、豊かなものにするために、自分たちで創意工夫しながら取り組む活動である。そのため、『自分たちで計画し実践する活動』であり、主体性や協調性、創造性、企画性などを主に培う活動である。また、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の活動形態の一つであり、学級生活を維持するための当番活動とは異なり、児童生徒の自発的、自治的活動である。

係活動の教育的な効果を学級担任にインタビューすると「学級のいい雰囲気を作り出している」、「メリハリのある学校生活を送ることができている」、「人間関係に良い影響を及ぼしている」、「他の教育活動にも良い影響をもたらしている」、「係活動で学級が一つになる」などの回答が見られた(澤山, 2022)。係活動は、係を構成するメンバーで目標を共有する、目標達成の方法や手段を共有する、役割分担を共有するなどの望ましい集団活動である。教師の適切な指導のもと、友達と協力して、目標達成のための活動に自分の役割を果たしながら係活動に取り組むことで次のような資質・能力を育成することになると考える。

- 学級という集団の生活をより良いものにするために、友達と協力しながら自分の役割を果たすことが大切であるということを理解し、そのための技能を身につけることができる。

【知識・技能】

- 友達と協力して係活動に取り組むために必要な振る舞い方を思考し、判断することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- 友達と協力してより良い学級生活を積極的に創り出そうとする。【学びに向かう力・人間性等】

このような資質・能力は、将来の市民生活を送る上でも大いに生きてくると考える。

(3) キャリア教育と良き市民としての基礎との関係

キャリア教育の定義は「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。キャリア発達とは、一人一人が自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく過程であり、学校や職業の選択だけを指すものではない。キャリア教育については、1999年の中央教育審議

会の答申において小学校段階から発達の段階に応じたキャリア教育の実施の必要性が示されたが、キャリア教育に対する誤解から、小・中・高等学校を通じたキャリア教育の取組みは充実しなかった。平成29年度の学習指導要領の改訂で「キャリア教育の要」として、学級活動(以下、学活)(3)に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が位置付けられた。このことによって、キャリア教育は学活(3)の授業として見える化することが考えられる。しかし、どのような授業がキャリア教育のねらいを達成することになるのか課題も残る。

小中の特活解説書には、学活(3)の留意点として「特別活動を学校におけるキャリア教育の要としつつ学校の教育活動全体で行うこと。」「学級活動(3)の内容を、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理する。」の2点を示している。

一つ目の留意点に示されている「特別活動がキャリア教育の要となる」ということは、学校教育全体でキャリア教育を行うということを前提としつつ、学活(3)で行う「一人一人のキャリア形成と自己実現」の授業を要とすることである。これは、学校教育全体で進めるキャリア教育を学活(3)の学習で、深めたり、補ったり、まとめたりすること示している。

二つ目の留意点については、学活(3)の内容は、将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定を大切に活動なので、小学校から中学校、高等学校へのつながりを考慮しながら、就業体験活動や進学や就職に向けた指導などの固定的な活動にならないようにすることが示されているのである。これらの留意点を踏まえながらの授業構想が大切である。

また「児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。」(生徒指導提要, 2022 文部科学省)と定義づけている生徒指導には、キャリア教育との密接な関係が示されている。これまで述べたような学活(3)の留意点や生徒指導との関係から、学活(3)で行うキャリア教育に関する授業は、発達の段階に応じた将来の生き方に関する授業や未来志向型の授業が相応しいのではないかと考える。

小中の特活解説書には、学活(2)と学活(3)は同じ学習過程として示されているが、自己の生活課題を解決するために意思決定して実践する学活(2)の授業とは、区別して指導することも肝要であると

考える。そのことが、良き市民としての基礎を育てることにつながると考える。

本資料では、児童生徒が市民としての基礎を培う係活動とキャリア教育の指導の在り方をデジタルコンテンツとして、小中学校の教職員に提供するものである。

2 教師用指導資料について

(1) 小学校係活動に関する指導資料

① すべての子供の学校適応感を高める係活動

本資料は、学級活動の活動形態について概要を捉えるとともに、小学校及び中学校における学級活動の目標や、学活の内容について説明したものである。次に、「学活(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の内容について説明し、そこから係活動に関わりのある「イ 学級内の組織づくりや役割の自覚」の内容について説明した。

係活動についての基本的な理解を促進するために、初任者研修や若年教員向けの研修等での活用や、学期はじめの研修での活用が期待できる。

② 設置する係とメンバー構成

本資料は、係活動とは「学級の児童が学級内の仕事を分担処理し、児童の力で学級生活を楽しく豊かにすることをねらいとしている。したがって、当番活動と係活動の違いに留意し、教科に関する仕事や教師の仕事の一部を担うような係にならないようにすることが大切である。」(小学校学習指導要領解説特別活動編、以下小解説)ということの説明し、1年生ではできそうなこと、やりたいことを一人一役になるように、当番的な係活動からスタートさせ、責任感や自己有用感の素地をつくることも大切であり、1年生の2学期くらいから徐々に当番活動から係活動へとシフトしていくことを説明する。

次に学級に設置する係の種類を決める際には、学級会の議題として取り上げ、学級にとって必要のある係を話し合い活動で決定し、全員で役割を分担するなど、自主的、実践的に取り組むようにできるようにすることが大切であることを説明する。係とは別に当番活動をまわしていくことを説明する。その際の留意点は「特別活動指導資料みんな、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(以下、指導資料)を参考に、以下の7つであることを示す。

- ・児童が必要とする係である。
- ・継続的に活動できる。
- ・成果が学級に反映される。

- ・複数で協力し合って活動できる。
- ・創意工夫が生かせる。
- ・提出物や忘れ物をチェックさせるなど、管理的な仕事の補助にならない。
- ・児童の負担過剰にならない。

また、指導資料を参考に、児童が他の学年や学級に取材をしたり、情報を得たりすることや、児童に休み時間に遊んだ経験や楽しかった事柄などをヒントにして活動を考えさせることや、教師がこれまで担任した学級の係や自分の経験などを紹介したりして、設置する係を決める際の参考にさせることを説明する。高学年を中心に、児童の自発的、自治的な学級会となるよう、「設置したい係プリント」を活用し、学級の子どもたち全員に書かせて、全員分を廊下などに掲示した後に、学級会を開くことを提案する。

係のメンバー構成を行う際には、どの児童も活躍でき、どの児童にとっても居心地のよいメンバー構成にするためには、教師がリーダーシップを発揮しながら、メンバー構成を行う必要があることを示し、具体的な手順は希望用紙に第3希望まで書かせ、1学期は教師が、昨年度の引継ぎや日頃の観察をもとに係のメンバー構成を決め、2学期以降は、話し合いの際に児童の思いも聞き取りながら、人間関係が広がっていくようにメンバーを構成していくことを提案する。

③ 係活動を活性化する工夫

係活動を活性化する工夫として、児童に企画書を作成させることを提案する。企画書を作成させることで子供たちが自発的、自治的に行動できる態度が育つと同時に、教師が的確なアドバイスを行うことができることを説明する。また、活動本番中には、企画書を作成し、準備を進めてきた児童を信じて、全て任せ、担任教師も、児童と一緒に思い切り活動を楽しむことで、児童の喜びと自信につながることを示す。また、活動後には、必ず活動の振り返りの時間を設け、次回の活動に生かせるように提案する。他の係への賞賛コメントもこの時に送るようにさせ、また、振り返りは児童任せにせず、担任の先生も積極的に声かけを行ったり、企画書のコメントに賞賛のコメントを書いたりすることを提案する。また、学級活動の時間は年間35時間(1年生は34時間)と限られているので、例えば、係給食の時間をつくる、タブレットを活用して全員で企画書をつくれるようにする。朝活動の時間を利用するなど、工夫して係の話し合いの時間を確保する必要があることを説明する。さらに、係での話し合いの際にタブレットを活用す

ることで、企画書を全員で書き込むことができるので、話し合いが活性化し、企画書を作成する負担が一部の子に偏らないなどの効果も説明する。さらに、学級に活動の参考になる本を設置する、係コーナーを充実させるなどの工夫も説明する。

(2) 小学校キャリア教育に関する指導資料

① 小学校

本資料は、まず、小学校の学活(3)の内容「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意味の理解」「ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」について説明する。

低学年のキャリア発達課題は、①小学校生活に適應する、②身の回りの事象への関心を高める、③自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動するであり、低学年では自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにすることが大切であることを説明する。

中学年のキャリア発達の課題は、①友達と協力して活動するなかかわりを深める、②自分の持ち味を發揮し、役割を自覚するであり、中学年では、友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるようにすることが大切であることを説明する。

高学年のキャリア発達の課題は、①自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する、②集団の中で自己を生かす、③社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませるであり、高学年では、苦手なことや初めて挑戦することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分の自信につながるようにすることが大切であることを説明する。

次に、中学校の学活(3)の内容「ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」「イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」「ウ 主体的な進路の選択と将来設計」について説明する。

② 中学校

中学校第1学年のキャリア発達の課題は、①自分の良さや個性が分かる、②自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする、③集団の一員としての役割を理解し、果たそうとする、④将来に対するおおまかな夢やあこがれを抱くことであり、第1学年の生徒は、新しく始まる中学校生活へ大きな期待を抱きながら入学してくる。小学校とは大きく違う学校生活が始まる。そこで、「中1ギャップ」などの問題を解決し、小学校から中学校への

円滑な適應を図っていくことが求められる。また、人間関係が拡大する時期でもある。他者とのかわりの中で自己をよく理解し、他者の個性を尊重し、より良い人間関係を築いていこうとする能力や態度を育てていくことが重要である。さらに、職業調べや職場訪問などの活動を通して、社会の様々な職業についての視野を広め、将来に対する夢やあこがれを抱いて、その実現に向けて努力する態度を育てていくことも大切であることを説明する。

第2学年のキャリア発達課題は、①自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する、②社会の一員としての自覚が芽生えたとともに、社会や大人を客観的にとらえる、③将来への夢を達成する上で、現実の問題に直面し、模索するなど、第2学年の生徒は、学校生活にも慣れ、新入生を迎え、中学生活にやりがいを感じ、中堅学年として充実した生活を送ることのできる学年である。そこで、中堅学年としての学校生活における立場や役割を自覚させ、新たな希望や抱負をもって、有意義な学校生活を送るようにすることが大切である。そのためには、自分の特性や能力を生かしながら、充実した学校生活を自分でデザインし、何事にも意欲的に取り組もうという心構えをもたせるとともに、職場体験活動等に参加する機会をとらえて、社会と自分とのつながりについても考えさせる必要があると説明する。

第3学年のキャリア発達課題は、①自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める、②社会の一員としての義務と責任を理解する、③将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するであり、第3学年の生徒は、義務教育の最終学年であると同時に、自らの将来について深く考える学年である。自己の将来設計に基づく具体的な進路選択の時期を迎え、具体的な進路選択に直面し、意志決定を迫られる。人生における重大な選択の時を迎えることになるため、生徒によっては時に精神的な余裕がもてなくなる場合がある。そこで、最上級生であるという自覚のもと、希望と抱負をもって中学校生活の最終学年を送っていこうとする心構えと現実を見つめる決意をもち、自らの課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとする姿勢が大切になることを説明する。

(3) 小学校キャリア教育授業実践例

本資料では、特別活動を要として行われるキャリア教育について、学活(3)における小学校低学年での具体的な授業実践例をもとに、キャリア教育の授業の在り方や、指導におけるポイントを挙

げている。

① 題材について

対象：小学校第2学年

学活(3)：「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」

題材名：「当番パワーアップ大作戦」

めあて：「当番をパワーアップするためにできることを探そう」

本題材で育成する資質・能力

- ・ 自分のよさや頑張っていることを理解するとともにとともに、目標達成に向けて必要な知識や行動の仕方を身に付けている。【知識・技能】
- ・ 話し合いから、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、自分が取り組むことを意思決定することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ よりよく生活するために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成のために主体的に行動しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

② 授業の流し方(表1)

つかむ段階では、まず、当番活動の取組についてのアンケートや、活動の様子を記録した写真などをもとに、活動しているときの気持ちや頑張っていることについて話し合う。そのうえで、もっと良くなるための方法を話し合う。ここでは、はじめから課題ばかりを話し合うのではなく、まず今の良さや出来ていることは何かを話し合う。そのうえで、課題をつかませることで、今何が出来ていて何が足りないのかを自覚することができる。また、課題ばかりの話し合いだと児童の意欲も下がってしまうが、現在の良さにも触れることで、児童の自主的・実践的な態度にも繋がる。

次に、出し合う段階では、上級生の当番の取り組み動画から、仕事をするにはクラスのみならず自分にも良いことがあるということを知るとともに、パワーアップポイントを探すようにする。このとき、ただポイントを探すだけでなく、当番活動をもっと良くなるように考えることは、自分はもちろん、クラスのみならず自分にも良いことがあるということ意識させることが重要である。このことは、児童の社会参画意識の醸成や、働くことの意義の理解に繋がる。また、上級生の動画を見ることは、近い将来の自分の姿を想像することができ、自分が思い描く理想の自分になるための方法を探すことに繋がる。このとき、当番活動において、どのような行動がより良い活動に繋がるのかがどの児童にも分かるように、動画を見

るポイントをあらかじめ提示しておいたり、資料や写真を提示する順番を工夫したりする必要がある。

話し合う段階では、当番の仕事をパワーアップさせるために、自分達にできそうなことを話し合う。出し合うの段階で見つけたポイントや、今までの話し合いから考えた方法を出し合って全体で共有する。このとき、この話し合いが決める段階での意思決定に繋がるようにすることができるようにする。また、出てきたパワーアップのための方法をするには、クラスみんなの生活に貢献することや自分の役割を意識できるようにする。

最後に、決める段階では、話し合う段階で出した解決方法等を参考に、自分が当番活動をより良いものにするための方法を決めるようにする。このとき、自分にとって必要な方法を、話し合いの意見も参考にしながら決めるように伝えることも必要である。他人と比べるのではなく、今の自分を見つめて、自分に合った方法を意思決定できるようにする。

表1 小学校第2学年学活(3)の授業の流し方

段階	主な活動
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当番の取組についてのアンケートや、活動の様子を記録した写真などをもとに、活動しているときの気持ちや頑張っていることについて話し合う。 (例)・当番を楽しんでる人が多いね ・ 毎日仕事を忘れないように頑張ってます ・ 今後も自信をもって継続して取り組みばよいことを知る一方で、どうしたらもっとパワーアップできるか課題をつかむ (例)・今よりももっと頑張ることができるよ何をしたらいいかな
出し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上級生の当番の取組動画から、仕事をする中でみんなにも自分にも良いことがあることを知るとともに、パワーアップポイントを探す。 (例)・給食の時間をしっかりとれるように声掛けをしているよ
話しあう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当番の仕事をパワーアップのために、できそうなことを話し合う。 (例)・私たちも声掛けをすることができるね ・ 仕事を忘れないようにチェックリストをつくることできるね
決める	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで出し合った解決方法等を参考にし、自分が当番活動を行うために、特に頑張りたいことを決める。 (例)・振り返りシートを使います ・ 給食をこぼさないように慌てずに注ぐ

授業後は、決めた方法を実践できるように期間を設け、頑張りカードなどに記入をし、後日全体で活動の振り返りができるような場を設ける。

(4) 中学校キャリア教育に関する指導資料

① キャリア教育とは

本資料は、これまでの主なキャリア教育推進施策の展開について概要を捉えるとともに、キャリア教育やキャリア発達の定義、小学校及び中学校におけるキャリア教育の目標や、各発達段階におけるキャリア発達課題について説明したものである。キャリア教育についての基本的な理解を促進するために、初任者研修や若年教員向けの研修等での活用が期待できる。

キャリア教育は、特別活動を要として行われる教育活動である。そのねらいを十分に達成するためには、キャリア教育が推進されてきた施策の歴史について概要を捉えるとともに、キャリア教育の定義や目標などについて理解し、その本質に迫った授業づくりを児童生徒の発達課題に合わせて行っていくことが大切となる。

本資料では、これまでに展開されてきたキャリア教育推進施策の歴史についてその概要を捉え、キャリア教育の定義について理解を促進すること、また、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる力や小学校・中学校におけるキャリア教育の目標、中学校までの発達段階におけるキャリア発達課題について理解を促進することをねらいとしている。

② 資料を作成した意図

本資料は、中学校1年生の学活(3)における授業実践例をもとに、学活(3)プランニングシート(以下、PS)を活用したキャリア教育の授業構想の練り方や、授業の流し方の各段階(つかむ、出し合う、話し合う、決める)におけるポイントについて説明したものである。

学活(3)の授業の題材や流し方、ポイントなどについて、基礎的な理解を深めたいという場合に活用できる。

③ 学活(3)プランニングシート

本資料は、図1に示す脇田(2022)によって開発された学活(3)PSの概要、及び学活(3)の授業構想におけるPSの活用法について説明したものである。本PSを活用する効果については「②資料を作成した意図」の項目で述べるが、学活(3)の授業づくりのための援助シートとして、個人だけでなく学年単位で授業づくりを行う際に活用できるものである。

学活(3)の授業構想について考える際に、本時の内容だけにこだわってしまい、事前・事後の活動内容とのつながりまで踏まえた構想を練ることができず困ってしまった経験はないだろうか。また、本時の授業まではうまくいったものの、授業

第 学年 組 学級活動(3)HR 活動(3)プランニングシート
学籍番号< > 氏名【 >】

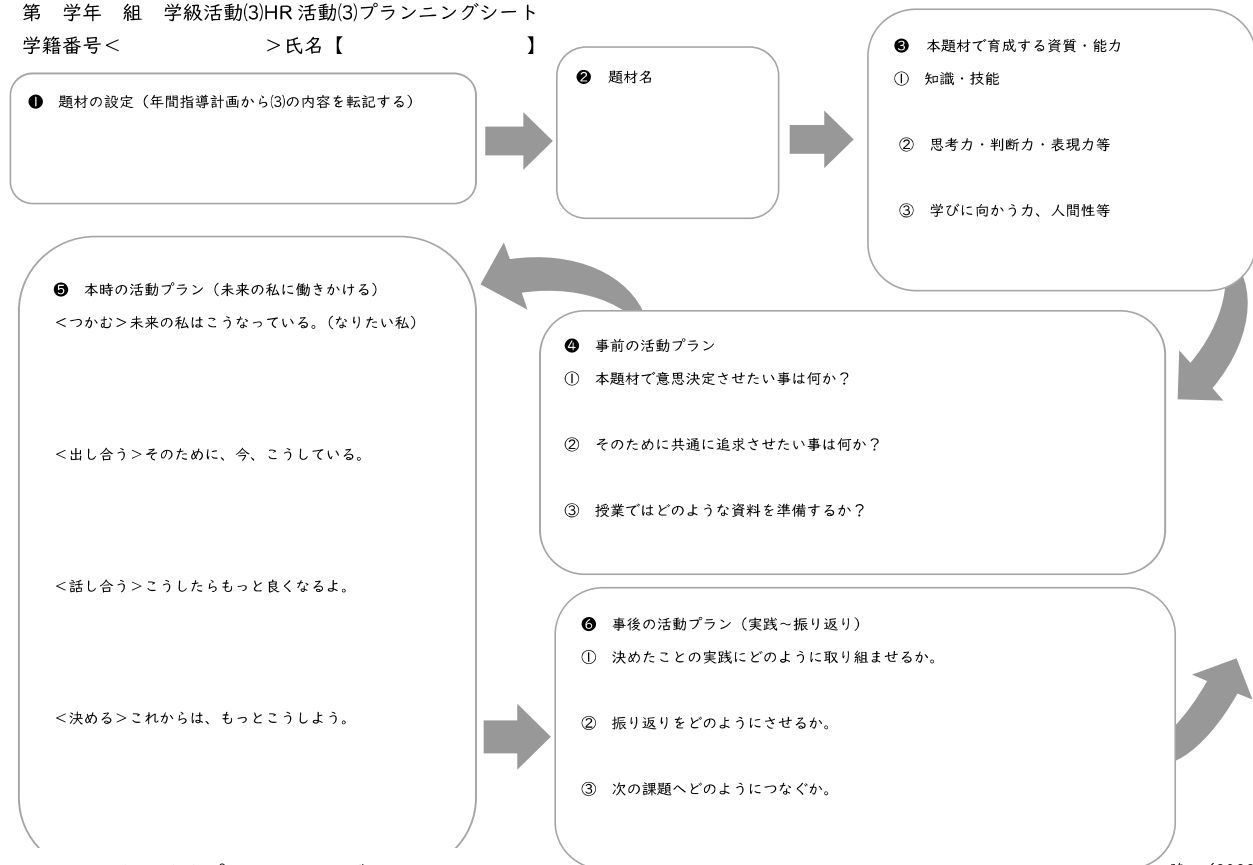


図1 学活(3)プランニングシート

脇田 (2022)

後の実践の行わせ方や、次の課題へとつなぐ振り返りのさせ方がうまくいかずに悩んだことのある教師も多いかもしれない。実際に、学活(3)では、児童生徒にとって深い学びとなる授業づくりを行うために、学習過程の事前、本時、事後の活動プランに見通しを持ち授業づくりを進めることがとても大切になる。

PSは、①題材の設定(学級活動(3)の年間指導計画から、子供たちに指導する題材を設定する)、②題材名(題材名は、学習することがイメージできるように体言止めで表記する。例)もうすぐ中学生、3年生になって)③本題材で育成する資質・能力(学級活動(3)で育成する資質・能力例)働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。【知識・技能】○自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】○現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。【学びに向かう力・人間性等】)、④事前の活動プラン(①個々の児童が解決すべき共通の課題を何にするか。※将来のなりたい自分をえがいた時に、今の自分が努力すべき個々の課題、②問題意識をどのようにして高めるのか。※本時学習の課題意識をどのような形で高めるのか。③授業ではどのような資料を作成するのか。例)つかむ段階:グラフ・紙芝居、ペープサート、決める段階:がんばりカード、学級会ノート)、⑤本時の活動プラン(<つかむ段階>ゴール像の意識化・共通化:将来の生き方に関する課題を解決したなりたい自分像を紹介し合い、本時学習のめあてをつかむ段階。<出し合う段階>現在の取組の紹介:将来の生き方に関する課題を解決するために、今、具体的に努力していることを出し合う段階。<話し合う>より良い解決方法の共有:これまでの取組みを振り返り、見つけた解決策や調べて分かった解決策などを話し合う段階。<決める段階>行動目標の意思決定:展開後段の話合いを受け、気付いた改善点を意思決定し、行動を起こす段階。)⑥事後の活動プラン(①決めたことの実践。※意思決定した行動目標の実現にどのように取り組ま

せるのか。②振り返り※どのように活動を振り返らせるのか。例)活動後何日で振り返らせるのか。※どのような視点で振り返らせるのか。例)自分が取り組んだことは何か。取り組んで分かった事は何か。次に挑戦したい事は何か。③次の課題解決へ。※振り返り後に取り組ませる事。例)目標の修正・目標の変更。※個への関わりカウンセリングの充実)の各段階における具体的な書き込み方を詳しく説明することで、PSの作成方法について理解してもらい、授業構想に有効に活用し、児童生徒にとって深い学びとなる授業づくりを行うことができるようになってもらうことをねらいとしている。

③ キャリア教育の授業に関する留意点

よく学級活動の目標について、学活(1)は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」こと、学活(2)(3)は「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」ことがそれぞれの目標であると説明される。では、学活(2)と(3)には、具体的にどのような違いがあるのであろうか。

本資料では、特別活動を要として行われるキャリア教育について、学活(3)における具体的な授業実践例をもとに、「未来志向型」という特色を生かしたキャリア教育の授業の在り方や、授業の中におけるポイントに対する理解を深めてもらうことをねらいとしている。

また、PSを活用して授業づくりを行っているため、具体的な活用方法についても理解を深めることができる。それぞれの内容については、あくまで概要や参考となる例を述べているものである。そのまま活用するのではなく、自分が行いたい授業や学びたいことに合わせて、活用方法を考えていく必要がある。

(5) キャリア教育に関する中学校実践例

① 資料を作成した意図

本資料は、特別活動がキャリア教育の要であることを「中央教育審議会答申」や「小学校学習指導要領総則編」、「中学校学習指導要領総則編」から説明したものである。

キャリア教育の重要性を理解するために、初任者研修や若年教員向けの研修等での活用が期待できる。

② 題材「もうすぐ中学生」

本資料は、小学校6年生の学活(3)ーア「もうすぐ中学生」の授業実践例を、PS(脇田2020)を活

用し、キャリア教育の授業構想の練り方や、授業の流れや各段階（つかむ、出し合う、話し合う、決める）におけるポイントについて説明したものである。学活(3)の授業の流れやポイントについて、基礎的な理解を深めたいという場合に活用できる。

卒業前の6年生は、4月からの新しい生活に向けて期待と不安でいっぱいである。そこで、「もうすぐ中学生」を実践することで、自分のよさや課題を分析したり新たな目標を立てたりして、中学校生活への見通しをもつことができるようになる。

本資料では、PSを活用し、本時だけでなく、事前の活動プランや事後の活動プランを説明している。事前の活動では、誰しも中学校生活に向けて不安があることを理解させたい。本時では、キャリアパスポートの活用や話し合いを通して、理想の中学生に向けて、これから実行していくことを自己決定させる。事後の活動では、計画表を作成し、実践し、振り返りをする。振り返りをして、成果と課題を明らかにすることで、自分自身の成長につながる。

③ 題材「本の分類」

本資料は、小学校中学年の学活(3)ーウ「本の分類」の授業実践例を、PSを活用し、キャリア教育の授業構想の練り方や、授業の流れや各段階（つかむ、出し合う、話し合う、決める）におけるポイントについて説明したものである。

学活(3)の授業の流れやポイントについて、基礎的な理解を深めたいという場合に活用できる。

読書によって語彙力や読解力が高まる。また、筆者はどのような意図で書いたのか、物語なら登場人物はどのような気持ちだったのか等、想像しながら読むことで、想像力が豊かになる。そこで、「本の分類」を実践することで、自分があまり読んだことのない分類の本の内容や面白さを知り、読書活動の幅を広げることができるようになる。

本資料では、PSを活用し、本時だけでなく、事前の活動プランや事後の活動プランを説明している。事前の活動では、自分が借りた分類の本の貸し出し冊数のデータから、自分の読書活動の課題を見つける。本時では、これからの読書活動への取り組み方を意思決定する。事後の活動では、図書室で本を借りる際実践し、振り返りをする。振り返りで、新しい分類の本のよさや面白さを想起することを繰り返すことで、読書活動の幅を広げることにつながる。

④ キャリア教育の要としての特別活動

「中央教育審議会答申」や「小学校学習指導要領総則編」、「中学校学習指導要領総則編」を示し

たのは、国の方針や考えを理解するためである。また、小学校と中学校の内容を示したのは、9年間を見通して、意図的・計画的な指導を行えるようにするためである。

学校現場では、キャリアパスポートの活用方法や学活(3)の授業方法の戸惑いは多い。本資料を読むことで、キャリア教育によって児童・生徒が、学ぶことに興味や関心を持ったり、自らの生き方を考え主体的に進路を選択したりすることが期待できることを理解するためである。また、働くことの意義の理解や勤労観・職業観の形成にも繋がることを理解するためである。

「つかむ」「さぐる」「みつける」「決める」の流れをもとに、児童の実態に合わせてアレンジして実践していただきたい。

(6) 中学校キャリア教育授業実践例

① 題材「2学期に向けて」

本資料は、中学校の特別支援学級(知的障害特別支援学級)の学活(3)ーウ「2学期に向けて」の授業実践例を、PS(脇田2020)を活用し、キャリア教育の授業構想の練り方や、授業の流れや各段階（つかむ、出し合う、話し合う、決める）におけるポイントについて説明したものである。学活(3)の授業の流れやポイントについて、基礎的な理解を深めたいという場合に活用できる。

まず、本題材で育成する資質能力については、自分の活かせることや頑張っていることを理解するとともに2学期の目標達成に向けて実践することができる「知識・技能」、話し合ったことを生かして、2学期の目標を達成するために、何を、どのようにするか、自分が取り組むことを意思決定することができる「思考力・判断力・表現力等」、自分の良いところを理解した上で、2学期の目標達成に向けて進んで努力しようとする「学びに向かう力、人間性等」とした。めあては「2学期の目標を達成するために、今から取り組むことを決めよう」である。

具体的授業の流れとポイントについて述べる。

「つかむ段階」は、めあてをつかむ段階である。具体的には、この段階で生徒は、2学期の学校行事等の確認やアンケート結果(2学期の目標)から、本時学習の「2学期の目標を達成するために、今から取り組むことを決めよう」というめあてをつかむ。この段階でのポイントは、学校行事等の確認から2学期の見通しを持たせること、アンケート結果を視覚的に提示し、2学期の目標はあるが、具体的な取り組みが決まっていないことに気づかせることの2点である。

「出し合う段階」は、今、取り組んでいることや頑張っていることなどを出し合う段階である。具体的には、この段階で生徒は、2学期の目標を達成するために活かせることはないか1学期の自分を振り返り、頑張っていることや自分の良いところを出し合う。この段階でのポイントは、写真や動画などを使って、自分自身を振り返ることができるようにすること、頑張っていることや自分の良いところがあまり出ない場合には、教師が生徒の頑張っていることや良いところを紹介することである。

「話し合う段階」は、課題解決に向けて、こうしたらもっと良くなるということ話し合う段階である。具体的には、この段階で生徒は、2学期の目標を達成するための方法を話し合ったりChromebookで調べた方法を共有したりする。この段階でのポイントは、特別支援学級がゆえの少人数による意見の少なさを補うために、事前に交流学級の生徒や教職員に聞き取り等を行い、必要に応じて、課題解決に向けた方法を紹介することである。

「決める段階」は、これから取り組むことを意思決定する段階である。具体的には、この段階で生徒は、2学期の目標を達成するために、取り組むことを意思決定する。この段階でのポイントは、自分にあった意思決定ができるよう、声かけを行うことや一人で決めることができない場合は、教師と一緒に意思決定する等の生徒の実態に合った支援を行うことである。

② 資料を作成した意図

学校では、学期ごとに目標を設定することがある。その際に、漠然とした目標はあるが、目標達成に向けた具体的な取り組み方が分からないということが少なくない。そこで、本授業実践例である「2学期に向けて」を実践することで、目標達成に向けて、自分の活かせることの理解や友達の意見から新たな解決方法の発見することができる。そして、それらの過程を経て、目標を達成するために、何を、どのように取り組むか、自分に合った方法を意思決定することにつながる。

また、「特別支援学級でのキャリア教育が大切なのはわかるが、なかなか取り組めない」という意見を聞くことがある。本資料では、学活(3)の授業の流れやポイントについて説明しているため、特別活動を要としたキャリア教育について、理解を深めることができると考える。

③ 資料活用上の留意点

本資料はあくまで実践例である。特別支援学級

に在籍する生徒の実態は様々であるため、生徒一人ひとりの実態に合わせて内容の変更や必要な支援を行うなど、必要に応じて付加修正しながら実践していただきたい。

3 総合考察

(1) 小学校係活動の指導資料の活用について

係活動の指導については、教科書もなく、これまで、先輩教師の認識の範囲で後輩の教員に伝えられることが多かった。それゆえ、地域性や教員個々の捉え方で指導法が異なるところが大きかった。係活動とは、より良い学級生活を目指して全員が学級内の仕事を分担処理する自発的・自治的な活動である。

学級内の仕事を分担処理する活動には、係活動と当番活動がある。当番活動には、「日直当番」「掃除当番」「給食当番」などがある。これらの仕事は、秩序ある学級生活を送るために必要な仕事を、全員が役割を分担して取り組む活動である。だから、学級成員が「必ずやらなければならない活動」であり、教師の適切な指導のもと、責任感や奉仕の心を主に培う活動である。

それに対して係活動は、自分たちの学級を楽しく、豊かなものにするために、自分たちで創意工夫しながら取り組む活動である。そのため、「自分たちで計画し実践する活動」であり、主体性や協調性、創造性、企画性を主に培う活動である。

青木(2002)は、「自発的、自治的な係活動を育てるためには、教師は思い切って、係の子供たちに仕事を任せる姿勢が大切である。」と述べている。また、当番活動が教師の指導性が大きく発揮されるのに対し、係活動に対しては、「例えば、「生き物係」がその仕事に熱意を示さず、生き物への餌やりを怠けることがあっても、教師が注意を与えることは避けなければならない。」と述べるように、あくまで係の仕事は子供たちに任せるものであるという立場である。

本資料を活用するにあたっては、係活動を子供たちの自発的、自治的な活動にするということにこだわって欲しい。そのために、教師は、どのようなことに留意していけば良いのか読み取ってほしい。特に、学級の集団の質があまり高くない時期には、教師がその編成にまで、十分に留意してほしい。なぜなら、岡村(1991)が、係活動の問題点について「係の活動内容について、児童たちの好き嫌いの格差が大きく、係への希望が特定のものへ偏る傾向が強い。すなわち、きれいな仕事、楽

な仕事、目立つ仕事、見栄えのする仕事などに偏り、反対の性質の仕事は敬遠される傾向が強い。」と述べている。ここに示されている、きれいな仕事等と反対の仕事は、係活動を自分たちで創意工夫して進めていくときに必ず出現する。子供たちの係活動の様子を観察していると、みんなの前に出て係のお知らせをするなどの仕事や自分たちが作った賞状やメダルなどを渡すなどの仕事は進んでやりたがる子供が多い。反面、賞状やメダルなどをコツコツと作成したり重たい道具などを準備したりする仕事は敬遠しがちな子どもが見られる。しかし、自分たちで係の活動を進めていくときには、必ずやらなければいけない仕事なのである。

このような場面は、一つの係活動の仕事にも見られるし、学級内に設置する係の種類にも見られる。ただ、このようなことをそれぞれの係任せにしてしまうと、発言力の強い子供や力の強い子供がきれいな仕事や目立つ仕事をして、大人しい子どもが嫌な仕事をやらされてしまうということが生じるのである。係活動で楽しい学級生活を作ろうとしても、指導法を誤るといじめの構図ができてしまうこともあるのだ。

(2) キャリア教育の指導資料の活用について

キャリア教育は学校の全教育活動で行う。その時、特別活動がキャリア教育の要としての役割を担う。具体的には、学活(3)の学習で、日常のキャリア教育の視点からの指導を補ったり、深めたり、まとめたりする。例えば、児童生徒は、係活動や当番活動について、みんなのために学級のために働くのだから、自分の役割責任を果たすようにとか、決まりや約束を守るようにとかの指導を受けることがある。このことを題材にして「なぜ、係活動や当番活動で責任を果たさなければならないのだろう。」「なぜ、係で決めたことを果たさなくてはならないのだろう。」という視点から、日頃の自分たちの活動の様子を振り返る学習を行い、働くことの意義についての理解を深めることができる。

学活(3)も、意思決定した自己目標の達成に向けて実践に取組み、ある一定期間実践に取り組んだら「振り返り」を行う。この時、児童生徒一人一人の取り組みの状況に応じて、活動の様子を賞賛したり励ましたり、時には、目標を修正したり付加したりするように支援する。このことが、今回の改訂で学習指導要領に示された、「カウンセリングの充実」である。

これからは、学活(3)の授業と関連させながら、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援する校内体制を構築していくことも求められる。

今回の改訂で、小学校・中学校・高等学校が系統的にキャリア形成と自己実現に関する学習を行うことが求められた。そのためにも、小・中・高等学校 12 年間でどのような題材で学習するのかを明示した学活(3)の年間指導計画が必要になる。可能であれば、近隣の幼稚園、保育所も含めて小学校、中学校、高等学校で系統的な指導計画を作成していくことも検討できる。そして、自校の「キャリア教育全体計画」を作成して、キャリア教育の要としての特別活動をどのように推進していくのか全教職員で共通理解を図っていくことも大切である。そのような時に、本指導資料を活用して欲しい。

キャリア教育は、学校選択や職場体験などの狭義の内容だけではない。児童生徒が社会との関係の中で自分らしく生きていくことを学ぶ教育でもある。キャリア教育は全教育活動で行うが、具体的には、どのような教育を行えばいいのかがはっきりしなかったのも事実である。「これまでと何も変わらない。」「今あることを実践すれば良い。」と聞こえの良い言葉が並んだことがあったが、あとに残ったのは、結局キャリア教育は何もしなくても良いという間違った捉え方だけであった。

今回、学活(3)に「一人一人のキャリア形成と自己実現」という内容が示されたことは、授業でキャリア教育を推進するということが明確になったということである。今後は、発達の段階に応じながら、一人一人の児童生徒が将来の生き方を描く教育としてのキャリア教育を学活(3)の授業を通して取り組んで欲しい。児童生徒の将来とは、発達の段階に応じて設定していかなければならない。各学校のキャリア教育の推進にあたって、本資料が活用されることを心から願う。

参考・引用文献

- 青木孝頼 2002 特別活動指導の基本構想 文溪堂
- 文部科学省 2011 小中学校キャリア教育の手引き
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説特別活動編
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説総則編
- 文部科学省 2017 中学校学習指導要領解説総則編
- 文部科学省・国立教育政策研究所 2018 みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動
- 中央教育審議会 2017 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について 初等教育資料
- 岡村二郎編著 1991 学級係活動の指導方法 明治図書
- 脇田哲郎 2022 学級活動(3)プランニングシート